

平成25年司法試験 合格体験記

平成24年度修了（既修コース）山崎 栄喜

1 自己紹介

岡山大学法務研究科8期既修の山崎栄喜と申します。私は、岡山大学法学部出身で、平成25年に本研究科を修了し、司法試験に合格することができました。

2 合格体験記

ロースクール1年目は、授業の予習、復習を中心に、空いた時間で問題集を解いていました。しかし、約1年後に司法試験という時期に受けた短答模試で、160点しかとれない状態でした。

この結果が、私の勉強方針を180度変えるきっかけになりました。原因を分析したところ、私は、問題を解いて勉強した気になっていただけで、肝心の、基本的知識を記憶する作業を怠っていたことに気づきました。短答対策において、基本的知識の理解、記憶を積み重ねていけば、自然と論文の力も伸びてくるという先輩の助言を参考に、今までの論文中心の勉強を一旦改め、短答対策を重点的に行う計画を立てました。

ロースクール2年目は、平成24年9月の短答模試まで、短答：論文＝9：1の割合で勉強しました。具体的には、1週間集中的に1科目の短答の問題集を回し、一定の分野を解き終わる毎に、辰巳の条文判例本を読み、知識を体系的に理解、記憶する作業をしました。また、就寝の1時間前から、日中に読んだ条文判例本の箇所をもう1度読み直し記憶の定着化を図り、さらに定義、趣旨は意識的に記憶するようにしました。

9月の短答模試で230点台まで上げることができたため、10月以降、徐々に論文の比重を高めていき、1月以降は、短答：論文＝2：8の割合で勉強していたように思います。論文対策としては、合格された先輩方や合格体験記を参考に、各科目問題集1冊を決め、その1冊を集中的に解きました。処理能力の維持、向上を図ることを目的に、初見の問題も定期的に解いていました。また、出題趣旨、採点実感、再現答案を基に、過去問を素材として、各科目で求められている能力の分析や、試験委員に評価される答案の探求をしました。

司法試験当日は、どの科目においても、ペンが止まりどう書けば良いのか悩む瞬間がありました。その時は、受験生の大多数はどのように思考し何を書くかを考えるようにしました。大多数が書くことを自分も書くように心がければ、100点満点中50点の平均的な答案を作る事ができると思ったからです。また、基本に立ち返り、定義、趣旨から思考するように心がけました。論文試験当日に、定義、趣旨が瞬時に出るようになったのは、1年前に短答対策を集中的にしたからだと思います。

司法試験に合格し改めて思い返しますと、1日10時間の勉強量を2年間維持し続けたことと、勉強方法を常に改善し適切な時期に適切な勉強をするように意識し続けたことが良かったのかもしれないと思いました。

私の合格は、先生方、先輩方の支えがあったからです。岡山大学法務研究科では、先生と学生の距離が近く、先生方が授業や自主ゼミ等で親身になって指導して下さいます。本研究科で学んだ2年間が無ければ、私の合格はありませんでした。本当に感謝しております。

ありがとうございました。